

本を選ぶ

高校図書館版

NO.40 2005年(平成17年)11月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス
本社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

驚きを謎に仕立てる

—私の推理小説法—

暗記が苦手な、少し数学が好きだった私は理工系の土木へ進んだ。32年間、全国各地のダムや河川の現場へ赴任した。私の人生は引越しの連続であった。そのため、我が家の憲法は家具を持たないこととなった。もちろん、かさばる本もだ。

私は本が大好きだった。新任地での最初の休日には必ず図書館を探しに出かけた。購入しない代わりに図書館で本を借りた。引越しが多い理由もあったが、薄給でもあったのだ。私はいつも本を手を持っていたが、私の手にあった本はいつも図書館の本だった。その本は難しい本ではなかった。推理小説であった。

この2年間、私は続けて2冊の本を出版した。

この歳になって、これほど文章を書くことになるとは予想もしていなかった。56歳のとき建設業界の月刊誌で連載を始めることとなった。その出版社の編集長と酒の勢いで約束してしまったのだ。文章を書くとは、脳内を漂流する妄想を外部に固定化することだ。自分の軽薄さが暴露されてしまう。どうしようもない不安に包まれた。しかし、文章を書くという未知の好奇心に負けて歩みだしてしまった。

その時、支えになったのが若いころ図書館で読み漁った推理小説であった。不可解な謎が提示され、その謎が試行錯誤を経て解かれていく。推理小説の醍醐味は「不可解な謎」とその解決への「プロセス」である。私はその推理小説の手法で

書こうと決めた。

その不可解な謎は各地の「地形と気象」にすることとした。

私は、多くの赴任地で自然を相手に仕事をしてきた。誰よりも多く全国各地の地形と気象を五感で感じ取ってきた。全国各地の気象と地形は私にとっては驚きであった。私が感じたその驚きを謎に仕立てる。そして、なぜ驚いたかの理由を記述していく。驚きを謎として、驚いた理由を謎解きのプロセスとするのだ。

人間はどれほど独特な地形と気象の中に住んでいても、決してそれに驚いたり、それに疑問を持ったりはしない。それに驚き、疑問を持つのはいつも旅人だ。単なる旅人ではない、地形と気象に異常に興味を持つ旅人だ。その旅人が私であった。

例えば、皇居の半蔵門だ。あの半蔵門は土手である。明治以降に土手になったのではない。江戸時代の広重が描いた半蔵門もすでに土手であった。防御すべき城の堀を橋ではなく、堀を土で埋めた土手で渡るなど聞いたことがない。しかし、江戸っ子は決してこのことに驚かない。半蔵門は昔から土手でそれは空気のように当たり前だからだ。だから、半蔵門が土手ということに「なぜ？」という疑問を持ちようがない。

東京では私は旅人だった。だから、この半蔵門の土手に驚き、疑問を抱いた。半蔵門の驚きは見つけた。さて次に、どうやってこの驚きを謎に仕立てるか。謎を解くプロセスをどう組み立てるかの苦闘が始まった。

その結末は『土地の文明』（PHP研究所）でござい。

(竹村公太郎：立命館大学客員教授)

システムが変わりました

木下 通子

パソコン、変わりました

5月中旬に新しいパソコンが届き、ソフトもインストールしてもらいました。今回は、ハードもソフトも何もかもリース。県費でなく、図書費からの支出ですが、セットアップ、データ変換、導入時研修など、最初にかかるお金は現金で払い、後のものはすべて5年リースで契約しました。

図書館は二日間閉館する予定だったのですが、スクールアイリスのデータは、事前に取り出して変換してもらっていたので、実質的には閉館せずすみしました。初日の午後、セットアップをもらっている間は貸出を手作業で。次の日は、導入時研修を受けながら、午前中使い方を勉強して、昼休みの貸出からはそのままライブマックスで貸出という感じです。

いざ貸出の時に、利用者のデータのふりがなが全角と半角が混在していたり、教職員に生徒番号をふっていないかったり、アイリスの時には不便を感じなかったけれど、ライブマックスになったらすぐに困る事態も起こったのですが、なんとか利用者バーコードの印字も終わり、貸出をした時には感激！そして、何より便利だと感じたのは、検索システムのライブファインダーでした。

今回はハードを更新することも、大きな目的でした。パソコンがフリーズしてしまうのは日常茶飯事。司書室のパソコンなどは、日本語入力ができなくなる時もありました。サーバー、司書室、カウンターの3台を思い切って新規購入したのですが、カウンターで使っていた古いパソコンを、検索専用パソコンとしてカウンター横に設置し、ライブファインダーをインストールしてもらいました。

このパソコンも古いので、今も日本語入力ができなくなったり、フリーズしたり、トラブルは頻繁に起こるのですが、検索画面がいつでも出ていて、書名や著者名を入力すれば図書館に本があるかどうか自分で調べられるというのは、利用者にとってはかなり魅力です。

ライブファインダーには、図書館からのお知らせなどが書ける機能があり、先生の本の紹介を載せたり、図書館の開館予定をお知らせしたり、情報掲示板としても活用しています。

貸出・返却などのカウンター業務については、実はアイリスの方が便利だと思ふことがあります。それをソフテック（ライブマックスの開発元）に伝えたら、今回のバージョンアップでカウンター機能が充実するという返事が返ってきました。どうなるか、楽しみです。

パソコンが変わっていちばん便利になったのは、新着案内の制作とブックリスト作り。今まで帳票で打ち出した新刊リストをワープロで再入力していた日々が嘘のようです。新着案内は2週間に一回発行しているのですが、開館スケジュールや司書のお勧め本紹介（書評）などは事前に書いておいて、新着リストは発行日の前日に抽出しています。エクセルに変換して、一太郎に貼り付けているのですが、楽々。本当にうれしいです。

情報科とのその後

前回の「本を選ぶ」でも書きましたが、昨年一年生で図書館を使っただけの作業を経験した今年の二年生は、今年も情報の時間（アフリカや東欧などの名も知られていない小さな国のホームページを作る授業）で図書館を活用してくれています。

S先生が「最新 世界各国要覧」（東京書籍）の中から抽出した41国（1クラス41人なので）がランダムに当てられます。

資料として渡されるのは、「最新 世界各国要覧」の数字的データのみ。人口、面積、政治や宗教、経済、識字率、貿易相手国、マスコミ文化、日本との関係など、データは細かいのですが、読み解く力が必要です。自分がどの国を担当するかはまったくの運で、コートジボアール、セルビア・モンテネグロなど、初めて聞いた国名に当てられた生徒もびっくり。国のどこを目玉にホームページを作るかで、まず、悩んでしまいます。

この授業は一時間目から図書館で行われまし

た。S先生と事前に打ち合わせして、私が南アフリカのマリという国を担当することになったと想定して、どういう視点でマリについて考えていくかと参考図書の使い方を説明しながら紹介していきましました。

まず、百科事典で「マリ」という国をひく。百科事典を引く時には、必ず索引をひいて、関連する項目もチェックする。百科事典には〇〇と記載されていた。ここの中でポイントになりそうだなと思ったのは…と実際にやってみながら説明しました。

生徒が作業に入ってからからは、S先生といっしょに机を回り、統計資料をいっしょに見ていきます。

平均寿命が短いのはどうしてなんだろう？ 幼児死亡率がとて高いよね？ 主要産業は？ 貿易は？ など、ヒントになりそうなことをおしゃべりします。これを二年生9クラスやったのですが、同じ国を担当していても、人によって目のつけどころが違う。国旗の由来を調べたり、有名な偉人を調べたり。何を調べるかを決めて、資料を探し始めたら、足りない資料は他館から借りたり、購入したり、インターネットで一緒に調べたりして、提供しました。現在、生徒は下原稿を書き終わり、ホームページを作成中。発表の時には、ぜひ、見せてもらおうと思っています。

今年は一・二年生すべての情報の授業と連携しています。

新しい試み

パソコンを更新して、少し余力ができたので、やっとな展示や掲示物を工夫できるようになりました。

展示では、季節の展示に取り組めるようになりました。デパートの歳末商戦に負けなよう、うちの図書館はもうクリスマスです。話題にあわせた展示も少しずつ始めて、先日までは「星の王子さま」の展示をしていました。著作権が切れて、新訳がたくさん出たので、それを購入して、著作権法についての解説なども掲示してコーナーを作りました。女の子にはなかなか好評でした。

うちの生徒は、本好きで読書欲の高い子も多いので、本の紹介に興味がある子もたくさんいま

す。夏休みに「ナツイチ」など、各社が出す文庫本の案内を出入りの書店さんに頼んで多めにもらって、図書館入り口の「ご自由にお持ち下さいコーナー」に置いたら、あつという間になりました。それに気をよくして、本の紹介冊子などもおねだりしてもらっています。

今、ちょうど読書週間なのですが、図書委員会でクイズを出して、生徒に挑戦してもらっています。先生と生徒10人に本を紹介してもらって、誰がどの本を紹介したか当てるというクイズなのですが、なかなか難しい。景品付きなので、みんな真剣です。

それから、「心に響く ワンセンテンス」というのを募集しています。これは教頭先生のアイデアで、雑談していたらすぐにできそうだったので、いただきちゃいました。カウンターで、本を借りていく子に、用紙をいっしょに渡し、気に入ったフレーズを書いてきてくれると、それを掲示板に貼っています。

生徒の中にも、先生方の間にも、図書館はなかなか使える場所だぞというのが浸透して、中学生や外部の方が学校見学にいらした際に、図書館を必ず見学していただけるようになりました。ご案内はお手の物ですし。

本、読んでます

地区の輪番で埼玉高等学校図書館研究会の司書部役員をやっています。役員特権で、今年の司書部総会には、前日本図書館協会理事長・図書館情報大学名誉教授竹内愷先生をお迎えし、「学校図書館で働く私たちにできること」というタイトルで講演をしていただきました。

竹内先生のお話は、いつ伺っても要点がはつきりしていて、次の日から即実行できるものが多いのです。今回も、「学校図書館は図書館であり、図書館としての機能と目的を持っている。その目的を実現するために、司書は資料を収集し、適切に利用者に提供する」と、本の受け入れ作業がめんどくさいな一と思うこともあった私の頭をガツンと殴ってくれました。

そして、「人に本の面白さを伝えることを仕事とするのだから、自分の時間を使って本を読みましよう」とのお言葉。育児だ、家事【5頁末尾へ】

歴史をめぐる本のあれこれ

—Doing History! を楽しむ—

10代の頃、今で言う引きこもり系だったわたしは、「リアル」が苦手なフィクションしか読めず、非常に受身な読者だった。しかしそんな読み手であっても、書き手が読者へ強く呼びかけるコトバがちりばめられた本があることには気づいていた。歴史書や文学研究書などの、その真剣さがこそばいような直截的な熱意あふれる呼びかけ、思索への真摯な誘い。知恵や情報、そして歴史の受け渡しを促すため「いっしょに考えよう」というそのコトバたちは、「そして、ともに生きよう」と若者を世界へ引き、そして未来へと押し出そうとしてくれたのだと、今は理解している。

いま、ある程度オトナの時期を経ると、やはり「歴史」は大切な問いの場だと実感する。「歴史家」であれば、なおさらその大事さを「若い人」に伝えたいと思うことだろうと、書き手の側の気持ちを想像するようになった。これから紹介するのは、歴史を「教えた」かつ「ともに考えたい」という書き手の熱意がそのまま丸ごとカタチになった3冊の本。そのどれもが、「歴史すること」—歴史をめぐる問いを自らにひきつけて考えること—の楽しさを、きつと教えてくれるだろう。

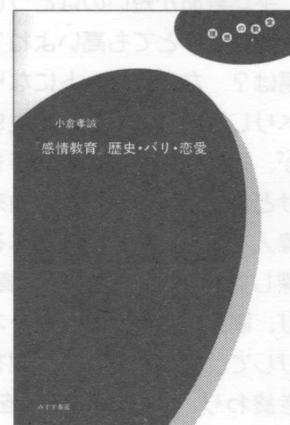
歴史とはなにか。なぜ歴史を学ぶべきなのか。そんな問いをつねに抱かせ続けながら、「人類の通史」を平易な語り口で若者に手渡そうとした本がある。その名も『若い読者のための世界史—原始から現代まで—』（E. H. ゴンブリッチ著／中山典夫訳／A5判／382頁／定価（本体3800円＋税）／中央公論美術出版）。350ページを超える分厚く重い邦訳本だが、ハリポタ時代の読者にはそうハードルは高くもないだろう。これは、オーストリアの若き美術史家であった著者が、幼い少女に語りかける形で展開される「世界史」だ。1934年、第一次世界大戦終了ののちに弱冠25歳で著された初版から50年（!）の時を経た1985年の改訂版をもとに、邦訳本は制作された。「50年後のあとがき」が付された本書は、歴史家である著者本人に

橋本 育

よって生きられた半世紀の経験（第二次世界大戦、冷戦体制、植民地解放、環境汚染、核の世紀、、、）と最新の歴史研究の成果、そしてなにより「新たな」絶望と未来への期待が加わっている。歴史を語るという行為が、歴史家自身の経験によってさらに深められ、ふたたび「若い人」へ向け編まれた、稀有の歴史書と言えるだろう。

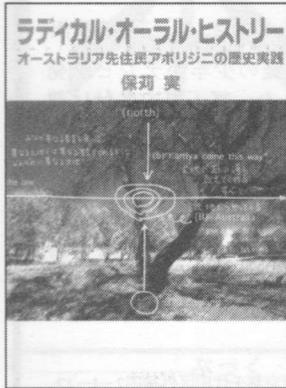
次に、書き手による熱心な歴史考察への誘いという点で「高校生への語りおろしの授業」という

コンセプトのシリーズ「理想の教室」の中から、『『感情教育』歴史・バリ・恋愛』（小倉孝誠著／四六判／166頁／定価1365円（本体1300円）／みすず書房）を紹介したい。これは文献案内もついて160ページほどの読みやすくハンディなもの。題材は「歴史小説」。多くの文学のジャンルの中で、一番歴史を描くことに成功したとされる「小説」の読み解きのレッスンである。19世紀フランスの小説『感情教育』を題材に、小説家が緻密な取材の上で制作した「物語り」から、ときに無味乾燥と思われがちな「歴史」にアプローチする楽しさを味わえる。また、進化概念を得た19世紀欧州における近代歴史学が当時の文学をはじめとする思想や社会生活に与えた影響が、わたしたち自身の「恋愛観」や「歴史小説」「恋愛小説」を好む傾向といかに結びついているかなど、著者ととも100年以上前



の登場人物たちの心情に共感を寄せながらの豊かな読書を体験することができる。

最後に、無文字文化の村で植民地時代の歴史



の聞き取りをした本、『ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』（保莉実著/A5判/318頁/定価（本体2200円+税）/御茶の水書房）を紹介したい。いつ・ど

こで・どうして・という事実の確定を問う、いわゆる歴史学に対して、なぜ・どのように、歴史が〈語られ〉〈書かれ〉〈聞き取られ〉〈記録され〉〈腑分けされ〉るのが、を問う視点の大事さが書かれている一本書の読者は、例えばゴンブリッチの世界史がいう「歴史という川」が、じつは欧州に流れているのはなぜだろう、という問いを見出すだろう。

歴史書は、同伴者を招きたがっている歴史のフィールドワーカーたちとの出会いの場だ。楽しむべきDoing History!の冒険に、誘われてみよう。

（はしもと いく：御茶の水書房）

【3頁末尾より】だ、パソコンの更新だ！と忙しさにまかしていた私は、こんなことじゃダメだと、夏休みに入ってからガンガン本を読むようになりました。司書として20年あまり。ありがたいことに、その節目には「司書は本を読まなくてはだめだ」と言ってくれる人がいました。

本を読むのはおもしろい。でも、ただ読むだけだと、司書はダメです。紹介するポイントをいかに押さえて読めるようになるか。読めば読むほど、そのカンに磨きがかかります。「らいぶらりい いんふおめーしょん」(隔週刊行の新着図書案内)で、紹介したい本がいっぱい。本を読んでいない時は、カウンターで生徒に「何かおもしろい本ないです

か?」と聞かれても、「書評でおもしろいって書いてあったから、これなんかどう?」みたいな、トーンの低いオススメしかできなかつたのですが、今は、テンションあげて、「これがすごいよ。この主人公が…」と語っています。

「司書さんに紹介された本だから、読んでみたい」「司書さんの紹介してくれる本はおもしろい」。なんてすてきな言葉でしょう! みんなが、そう言ってくれるから、本の受け入れも滞らないように頑張るし、リクエストの本はすぐに渡せるように手続きするし、事務仕事も頑張るし。今、仕事がすごく楽しいです。

（きのした みちこ：埼玉県立春日部東高校司書）

DMかたろく

物理学大事典 鈴木増雄ほか2名編 定価37800円

気象ハンドブック(第3版) 新田 尚ほか3名編 定価39900円

図説日本の植生 福嶋 司・岩瀬 徹編著 定価5670円

日本古代史事典 阿部 猛編 定価26250円

朝倉心理学講座 海保博之編の◎好評発売 定価各3570円

◎'06 総合図書目録にあります。ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29 162-8707 ☎03-3260-7631

好評につき第Ⅱ期、今年冬より刊行開始!

<国書刊行会SF> **未来の文学**

第Ⅱ期・全6巻

失われたSFを求めて——60～70年代の傑作SFを厳選しておくる、SFファン待望の夢のコレクション!

四六変型・上製・平均280頁・各巻予価2520円

■第1回配本■

ジーン・ウルフ『デス博士の島その他の物語』 浅倉久志・伊藤典夫・柳下毅一郎訳

以下続刊……

アルフレッド・ベスター『ゴレム』 渡辺佐智江訳

アンソロジー<未来の文学>

I.『グラクの卵』 浅倉久志編訳(ポンド、カットナー、スラデック他)

II.『ベータ2のバラッド』 若島正編(ディレイニー、エリソン他)

クリストファー・プリースト『限りなき夏』 古沢嘉通編訳

サミュエル・R・ディレイニー『ダールグレン』 大久保謙訳

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 (税込価) ☎03-5970-7421 FAX03-5970-7427

発明家は子ども!

マーク・マカッチャン ジョン・カネル絵/千葉茂樹訳



14歳の少年がテレビを発明した。冥王星の名付け親は11歳の少女。点字を作ったのは、盲目の少年だった…。すばらしいアイデアを思いついたら実現するまで、自分を信じてあきらめなかった子どもたちの、ほんとうの物語。

◆A5変型版/90頁/1365円

晶文社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03(3255)4501 ※価格は税込
<http://www.shobunsha.co.jp/>

男性保育士物語

小崎恭弘著
あこがれの職場に入ってみたら…。一八九〇円

シリーズ既刊 各巻二二六〇円〜一五七五円
社会福祉士/介護福祉士/ホームヘルパー/保育士/理学療法士/作業療法士/看護婦/士/ケアマネジャー(介護支援専門員)/ボランティヤ/栄養士/管理栄養士/盲導犬・聴導犬/介助犬訓練士/言語聴覚士/歯科衛生士/歯科技工士/福祉レクリエーション/ワーカー/精神保健福祉士/福祉住環境コーディネーター/手話通訳士

◆したい仕事と出会える! まるごとガイドシリーズ
⑱ 義肢装具士ガイド まるごと
日本義肢装具士協会監修 一五七五円

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

高校生から読める名作シリーズ 好評発売中!

理想の教室

第一期・全30冊

シェイクスピア、漱石、ドストエフスキーからオーウェル…とりあげる作品は『ロミ・ジュリ』『こころ』『悪霊』『動物農場』。さらにはパスカル『パンセ』にヒッチコック、ビートルズに『日本国憲法』etc. 若い世代から大人までおすすめ、ライブ感覚で古典を読む、全30冊(既刊12冊)。四六判並製・カバー装/平均150頁・各1365円(税込)

<http://www.ms2.co.jp> みすず書房 東京・文京・本郷

限りなく広がる知識の世界

日本童謡事典



初の日本の子どもの歌大事典

上 笙一郎編 わらべ唄から現代のアニメ・テーマソングまで子どもの歌について作品・人名・事項などを解説。
菊判 5040円(税込)

〈最新刊〉

東京堂出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-17
TEL 03-3233-3741 <http://www.tokyodoshuppan.com>

かもがわ出版

<http://www.kamogawa.co.jp>

●体ほぐし・心ほぐしの基礎
運動神経の悪い悪いは遺伝ではない!一生に3度(幼児期・小学・中学)の黄金期にふさわしい運動をしているかが、カギを握っている。その指導方法と運動例を紹介。

運動神経

11995円
18990円

全3巻

CD-ROM付

漢字・漢語・漢詩

雑談・対談・歓談

加藤周一 十一海知義◎著

四六判上製
1575円

知の巨人と漢詩研究の第一人者が談論風発、侃侃諤諤の三時高半。漢字の将来性、日本文化と漢字など興味つきない絶妙の対話。第二部に「漢字文化圏の未来」とその韓国語・中国語訳も収録。

日本史総合年表

第二版

加藤友康・瀬野精一郎・鳥海博・丸山雍成編 14700円
最新の「日本史年表」決定版。旧石器時代から現代まで、政治・経済・社会・文化にわたる三八〇〇項目を収録。四六倍判

日本近世人名辞典

竹内 誠・深井雅海編

四六倍判/21000円

豊臣秀吉から幕末維新まで、個性溢れる有名人物三六五七人を網羅! 詳細な解説と墓所、肖像などを多数掲載する。

知って 日本のおもしろい名言・格言事典
大隅和雄・神田千里・季武嘉也・山本博文・義江彰夫著 A5判
先人たちの知恵が胸に響く! 聖徳太子から松下幸之助まで、歴史家が読み解いた、一四四名の珠玉のことは。27300円
価格 東京都文京区本郷七-21-18
電話 〇三三八-三一九一五
吉川弘文館

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
☎075(432)2868 FAX075(432)2869